# デジモード・ソフト設定例

# **RigExpert<sup>®</sup> TI-7** USB トランシーバインターフェース



取説もご熟読の上TI-7をご活用ください。

日本語版作成: JA1SCW 日下 覚 第1版 2014.07.20

# 目 次

1. DigiPan	3
1.1 オーディオ設定	3
1.2 PTT 設定	3
2. MixW	4
2.1 オーディオ設定	4
2.2 CAT 設定	4
2.3 PTT 設定	5
2.4 FSK/AFSK 設定	6
2.4.1 FSK モード	6
2.4.2 AFSK モード	7
3. MMTTY	9
3.1 オーディオ設定	9
3.2 PTT 設定	9
3.3 FSK/AFSK 設定	10
3.3.1 FSK モード	10
3.3.2 AFSK モード	11
4. MMSSTV	12
4.1 オーディオ設定	12
4.2 PTT 設定	13
5. MMVARI	
5.1 オーディオ設定	14
5.2 PTT 設定	14
6. Fldigi	15
6.1 オーディオ設定	
6.2 PTT 設定	16
6.3 CAT 設定	17
7. Ham Radio Deluxe	
7.1 CAT 設定	
7.2 オーディオ設定	19
7.3 PTT 設定	19
7.4 CW 設定	19
7.5 FSK/AFSK 設定	20
7.5.1 FSK モード	20
7.5.2 AFSK モード	21
8. WinTest	21
8.1 CAT 設定	
8.2 PTT/CW 設定	22

#### 1. DigiPan

(DigiPan version 2.0)

# 1.1 オーディオ設定

Configure ⇒ Sound card  $\lambda = - L D$ 

Туре	Computer soundcard 🛛 💌	OK
Input	マイク (RigExpert TI-7)	Cance
Output	スピーカー (RigExpert ∏-7) ▼	

Input に マイク(RigExpert TI-7)を、Output にスピーカ(RigExpert TI-7)を 選択し OK ボタンを押します。 注意:マイクおよびスピーカの命名は Windows が行いますので、 PC によっては 「デジタル オーディオ インターフ」と表示されます。これを「マイク」に変える には画面右下のスピーカアイコンを右クリック ⇒ 録音デバイス ⇒ RigExpert TI-7の 名称を「マイク」に変える ⇒ 適用・OK

#### 1.2 PTT 設定

Configure ⇒ Serial port メニューより PTT 出力を設定します。

Com8 👻	🔽 RTS as PTT
	🔽 DTR as PTT
🔲 Use Icom CI-V	

PTT 出力に使うシリアル・ポート番号を選択し(この例では COM8 )、OK ボタンで設定を 確定します。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで PTT 出力の設定が正しく行われ ているのを確認すると安心です。

(ンターフェース: RigExpert	TI-7 (70000004)
-CAT ホ^-ト 	
木選択	
PTT/CW ホ°ート	
CO M8	使用中ソフト: DigiPan.exe
PTT=F	RTS 721 CW=DTR 721
FSK ホ⁰–ト	
未選択	木"一下の追加

2. MixW (MixW version 2.20)

## 2.1 オーディオ設定

インストール・起動し個人データを入力後、メニューの動作環境設定 ⇒サウンドカード設 定を開くと次の画面になります。

は 置き	Computer	r soundcard	-	OK
ኢታ:	マイク (Rig	(Expert TI-7	-	キャンセル
出力:	スピーカー(	(RigExpert T	-	較正
R	×: a		T	×: 0
R 5 2491	X: 0 サッド履歴(H) ラム描画速度:	); [20 [x2	17 秒 •	× 0
R 5 2191	X: 0 サウンド履歴(H) ラム描画速度: DSPフィルタ(E)	): 20  x2   None	T) 秒 一	× 0 •
R 5 249F	X: ロ カウンド履歴(H) うな描画速度: DSPフィルタ(E) FFTウィントウ	): 20 x2 ) None Cosine	1) 14 -	× 0 •
R: サ スペラド 全二:	X: 0 ウッド線歴(H, ラム描画速度: DSPフィレタ(E) FFTウィンドウ 重(F) マ	); 20   ×2   None   Cosine	T) 秒 • •	× 0 ・ (D) 「

この画面で入力デバイスとしてマイク(RigExpert TI-7)を出力デバイスとしてスピーカ (RigExpert TI-7)をそれぞれ選択し、OK ボタンで設定を保存する。デバイスの名称違い は1頁の注意を参照のこと。

## 2.2 CAT 設定

#### 動作環境設定 ⇒CAT/PTT 設定 の画面より

-	] ] 71°17	7ch	OK キャンセル
\$~7r~7 0)	i¥\$[	∎_] r	無効
数を保存(S)	∏ t°ī	ビート周波製	の表示
হসৎহ	Ē	CATMER	(Hz)
2 <b>8</b> 6			
(V)5科~i		全モート	: 10
		USB	0
1		LSB	0
LSB _	3	CW	0
800	Hz		
2210	- Hz	テジモト	10
2210			
	×-7 <sub>1</sub> 7 0) 数を保存(S) 7ンドで ンドで ンドで いードで(V) 5 1258 800	▼ マトッレフ マトッレフ マトッレフ マトッレフ マートマ マートマ マートマ (V) トレフ マートマ レートマ (V) トレフ トレフ マート マート マート マート マート マート マート マート	マーフェース の) まそのなを保存(S) たでで マンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで ンドで シードで シャッ マ シャッ シャッ シー レ ンドで シー レ ン マ し 、 、 、 、 、 、 、 、 、

お使いの TRX 情報を入力し、詳細ボタンを押すと次のシリアルポート画面が現れます。

ポート	COM7 *	-	ОК
ボーレート	19200	-	キャンセル
データ ピット	8	-	
パリティ	None	•	
ストップ ピット	1	•	
RTS	PTT	-	□ パート・ウェアフロー制造
DTR	CW	-	

この冊子の例では、CAT ポートとして COM7 を、ボーレートは TRX 側で設定した値にします。データビット・パリティ。ストップビットは取説に記載内容に合わせます。OK ボタンで設定を保存して画面を閉じます。

#### 2.3 PTT 設定

動作環境設定 ⇒第2 PTT ポート の画面を開く。

ボート	COM8 *	-		OK
ボーレート	9600	-		キャンセル
データ ピット	8	•		
パリティ	None	•	П 13-	
ストップ ピット	1	•	□ 装置	を無効
RTS	PTT	T		
DTB	, Inv		E itski	<b>☆_フコロ〜単川</b> 須

PTT と CW 出力用のシリアルポート(例では COM8)を設定し、RTS を PTT にそして DTR を CW に割付けて、OK ボタンで設定を保存して画面を閉じます。

#### 2.4 FSK/AFSK 設定

MixW は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

#### 2.4.1 FSK モード

動作環境設定 ⇒CAT/PTT 設定 の画面を開き、「FSK を AFSK で」 にチェックが入っていないことを確認。

メーカ名  ICOM	-	- 		OK
®独名(M) Uther		1 7ML	2//ch	キャンセル
- PTT & CAT AN				
COM7 (1920	0)	I¥		無効
	·			
終了時に周波数 —	双を1米7子(つ)	1 1	叱~▶周波数の	表示
I✔ PTT&CATコマ 	540		-CAT補正(H:	z)
CW&CAT37	24C		AT. 1	0
CWをサウンドカ	~४¢(V)		¥t-r	10
CW&LSBで	_		USB	0
🔲 FSK&AFSKल		_	LSB	0
DIG (piz)	LSB _	1	CW	0
CW ピッチ	800	Hz	デジチード	0
FSK中心周波数	2210	Hz		1
	Luco	7	$TX \Rightarrow BX(T)$	): 0
I John TI - STT. I.	LUSB S			

OK ボタンを押して画面を閉じます。次に、動作環境設定 ⇒FSK ポート⇒ ポート設定 から次の画面を開く。

ポート	COM9 *	-		OK
ボーレート	1200	~		キャンセル
データ ピット		Ŧ		
パリティ	None	-	Г IJ~	
ストップ ピット	1.5	Ŧ	□ 装置:	を無効
RTS	Always On	•		
DTR	Always On	-	□	ウェアフロー制御

FSK 用のシリアルポート(例では COM 9)を設定し、OK ボタンで設定を保存して設定画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

179-71-7: RigExpe	ert TI-7 (70000004)
CAT ホ°−ト	
COM7	使用中ソフト: MixW3.exe パラメータ: 19200 ボー, 8, N,
PTT/CW ホペート	
CO M8	使用中ソフト: MixW3.exe
PT	T=RTS テスト CW=DTR テスト
FSK ポート	
CO M9	使用中ソフト: MixW3.exe
	ハ°ラメータ: 45 ボー, 5, N, 1.5

#### 2.4.2 AFSK モード

メニューの動作環境設定 ⇒CAT/PTT 設定 の画面を開き、「FSKをAFSK で」 にチェックを入れます。

メーカ名 ICOM <u>・</u> 機種名(M) Other ・	] ] 71°L7	124	ОК +r>лы
- PTT & CAT 1/1%-71-7			
COM7 (19200)	≣¥≇		無効
	Πth	ビート周波婆	の表示
🔽 PTT&CATסאעקב	r	CAT補正	(Hz)
עקבCW&CATS אעקבע האעקב		全モート	. 0
□ CWをサウンドカードで(V) ▼ CWをLSBで		USB	0
▼ FSKをAFSKで		LSB	0
DIG (VIZ) LSB 👱	]	CW	0
CW ピッチ 800	Hz	<del>≓</del> %∓ -	к <u>0</u>
FSK中心周波数 2210	Hz	, , , C	
	1	TX⇒RX	(T):  0

OK ボタンをして画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

ゆーフェース: RigExpe	rt ∏-7 (70000004)
COM7	使用中ソフト: MixW3.exe パラメータ: 19200 ボー, 8, N, 1
PTT/CW ホºート	
CO M8	使用中ソフト: MixW3.exe
PT	「=RTS テスト CW=DTR テスト
FSK ポート	
CO M9	- はどのプログラムも開いていません。

#### **3. MMTTY** (MMTTY version 1.68A)

# 3.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒SoundCard タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



入出力共に"RigExpert TI-7"を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

## 3.2 PTT 設定

送信タブを開き"Radio command"ボタンを押します。

adio comr	nand	-	MORE	C BYRGER		
Port de	finition					
Port	CO M8	🗾 Baud	19200 💌	Char. wait 0	\star ms	
	⊂Data length ○ 7bits ☞ 8bits	Stop • 1 bit • 2 bits	Parity	Flow control	F	(RTS
Commai	nds					_
Rx	¥\$FEFE××E01C	0000FD			xx-  /0	
Τ×	¥\$FEFExxE01C	0001FD¥w10				-
Model	Icom CI-V			▼ Polling inte	erval 1	secs
	Frequency offs • OFF • L	et .SB ⊂USB		□ Scan addr.		
Group	Icom xx=addr0	1-7F	• L	oad Save	ОК	キャンセル

PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8)し、PTT ボックスにチェックを入れ他は、お使いの TRX に合わせて設定し、OK ボタンを押して画面を閉じます。

#### 3.3 FSK/AFSK 設定

MMTTY は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

#### 3.3.1 FSK モード

送信タブを開き、FSK ポートの設定を行います。



FSK に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM 9)し、その他のタブを開く。

IMITY 設定画面		
Demodulator AFC/ATC/PLL	デコード   送信   フォン	ト/表示 その他 SoundCard
サウンドカード FIFO RX 12 ・ TX 4 ・	□ Save window loc	ation
Priority ONormal OHighest OHigher OCritical	サウント・ループ・ハ・ック ^ OFF ^ 内部	○ 送信ポート ○ サウンド ○ サウンド + COM-T×D (HSK)
Device Identifiers	○ 外部(衛星用)	COM-TxD(FSK) USB Port

送信ポートで "COM-TxD(FSK)"を選択し、"USB Port" ボタンを押す。

処理方法	
( A: 通常の処理	
OB: ボーリング	
	祁良
○ D: 送信速度の制	川限とポーリング
SKがUSBシリアルフ Sい場合はB, C, Dを 東度の制限が良いよ	マダブターで正しく動作 :試して下さい。(○)送付 :うです.

"USB Port Options"で「送信速度の制限」を選択し、OK ボタンで画面を閉じます。 次に"MMTTY 設定画面"で、OK ボタンを押して設定を有効にします。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

インターフェース: RigExpe	rt TI-7 (70000004)
cat ‡°−ŀ COM7	- はどのプログラムも開いていません。
PTT/CW ቱ°-ኑ	
COM8 PTT	使用中ソフト: MMTTY.EXE =RTS テスト CW=DTR テスト
FSK ホ⁰─ŀ	
CO M9	使用中ソフト: MMTTY.EXE ハ <sup>®</sup> ラメータ: 45 ボー, 5, N, 1.5

# 3.3.2 AFSK モード

送信タブの PTT&FSK の Port に NONE 選択します。



その他のタブを開き、"送信ポート"でサウンドを選択します。

Demodulator AFC/ATC/PLL	デコード   送信   フォン	ト/表示 その他 SoundCard
サウンドカード FIFO RX 12 ・ TX 4 ・	🗆 Save window loc	ation
Priority C Normal C Highest	「サウント゛ルーフ゜ハ゛ック── ○ OFF	○送信ボート
Higher Critical      Device Identifiers	<ul><li>○ 内部</li><li>○ 外部(衛星用)</li></ul>	C サウンド + COM−TxD (FSK) C COM−TxD(FSK)

次に"MMTTY 設定画面"で、OK ボタンを押して設定を有効にします。. リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行 われているのを確認すると安心です。

パーフェース: RigExpe	rt TI-7 (70000004)
COM7	- はどのブロクラムも開いていません。
PTT/CW	
COM8 PTT	使用中ソフト: MMTTYEXE =RTS テスト CW=DTR テスト
FSK ホ⁰─ト	
CO M9	- はどのプロクラムも開いていません。

#### 4. MMSSTV (MMSSTV version 1.13A)

# 4.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒その他 タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。

MMSSTV 設定画面			X
受信 送信 その他			
サウンドカード In マイク (RigExpert TI-7) Out スピーカー (RigExpert TI-7) ・	WaterFall	FFT 背景色 信号色	
FIFU RX 12 ・ TX 8 ・ 処理の優先度 C 普通 C 高い	履歴画像の数 32 ▼ JPEG	残像信号色 同期マーカー 周波数マーカー	
・ マン 同い ( 取向 一入力チャンネル の モノラル の 右 ch. の 左 ch.	<ul> <li>□□頁  80 · · · · ·</li> <li>□ ウインドウ位置を記憶</li> <li>□ 常にDIBを使う</li> </ul>	「MMSSTVの優 の普通	・高い
Clock 12000.00 ▼ Hz Adj T× offset 0.00 ↓ Hz	System Font Window MS Pゴシック Japanese	English	Size 0 ▼ Other
		ок	キャンセル

入出力共に"RigExpert TI-7"を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

#### 4.2 PTT 設定

送信タブを選びます。

ー ーテンフ*レートーーー	
. Callsign JA	A1 SCW
VOX tone C Standard C User define	
ック	▼ モード固定 「 FSKIDの送信
CCW C MM	/ 1000 - Hz
	Macro
	Consign 07 VOX tone C Standard C User define での (衛星通信用)

PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8)し、占有使用にチェックを入れ、OK ボタンを押して画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

インターフェース: RigExpert	: TI-7 (70000004)
CAT ホ°-ト	
COM7	使用中ソフト: MMSSTV.EXE
	パラメータ: 19200 ボー, 8, N, 1
PTT/CW ポート	
CO M8	使用中ソフト: MMSSTV.EXE
PTT=	RTS <u>ㅋ치</u> CW=DTR ㅋ치
FSK ホ⁰─ト	
CO M9	- はどのプロクラムも開いていません。

#### 5. MMVARI (MMVARI version 0.45A)

# 5.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒その他 タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。

MMVARI設定画画 受信   送信   その他		
サウンドカード In マイク (RigExpert TI-7) ▼ Out スピーカー (RigExpert TI▼	-受信画面 _フォント 文字コード表	スペクトラム
RX 12 ▼ TX 6 ▼ 入力チンャネル © モノラル ○ 右 ○ 左 処理の優先順位 ○ 音通 ○ 高い © やや高い	<ul> <li>□ タイムスタンフをUTCで表示</li> <li>□ マウスホイールでスクロール</li> <li>□ コントロールコート*を表示</li> <li>送信画面</li> <li>□ フォント</li> </ul>	レベル 信号色 LCD CRT
Clock RX 12000.00 V.Hz TxOffset 0.00 V.Hz	位置とサイズ © Windowsデフォルト ○ 前回状態に復元 □ サブチャンネルを復元	メニューメッセージの言語 日本語 英語 …
		OK ++>\tel

入出力共に"RigExpert TI-7"を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

#### 5.2 PTT 設定

送信タブを選びます。

PTT COM8 マ 占有使用 FSK(RTTY) 「 出力する 「 論理反転	<ul> <li>ルーブバック</li> <li>○ 内部ルーブバック</li> <li>○ 外部ルーブバック(衛星通信用)</li> <li>-キー設定</li> <li>TX F12 </li> </ul>	マクロ CallSign JA1SCW AS(CW) マクロ イベントマクロ 名前 OnTimer マ
リグコントロール その他 マ 全角アルファベットを半カ 〒 送信終了時のシング	TXOFF  PAUSE 」 ● 「 りレトーン (PSK)	<u>クリア</u> デジタル出力レベル Min Ma

PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8)し、占有使用にチェックを入れ、OK ボタンを押して画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

(ンターフェース: RigExpe	rt TI-7 (70000004)
cat ‡°−ŀ COM7	- はどのプロクラムも開いていません。
PTT/CW ホ⁰ート	
COM8 PTT	使用中ソフト: MMVARIEXE =RTS 「テスト」 CW=DTR 「テスト」
FSK ホ⁰─ト	
CO M9	- はどのプロクラムも開いていません。

6. Fldigi (Fldigi version 3.21.83)

## 6.1 オーディオ設定

Configure ⇒Sound Card⇒Audio タブから Devices タブを選択。

Operator	UI Wa	aterfall Modems	ID	Rig	Misc	Audio	Web	Autostart	
Devices	Settings	Right channel	Wav						
	Ooss	ŝ						Device:	
	Port	taudio	Ca	pture:	∫f}f	C <i>F</i> N (Ri	gExpert	TI-7)	\$
	Pon	LAUdio	Pla	yback:	fXf	s[f][ (R	igExper	t TI-7)	\$
	OPuls	eAudio			Serve	er string			
	◯File	I/O only							

PortAudio にチェックを入れ、入出力共に"RigExpert TI-7"を選択します。日本語に未 対応ソフトなのでマイクとスピーカに相当する部分が文字化けします。デバイスの名称違いは**1頁の注意**を参照のこと。

## 6.2 PTT 設定

Rig タブと Hardware PTT タブを選択します。

perator UI Waterfall Moden ardware PTT RigCAT Hamlib	ns ID Rig Misc Audio Web Auto	ostart
OPTT tone on right	audio channel	
h/w ptt device-pin Use separate ser Device: COM8	ial port PTT ØUse RTS	ORTS = +V ODTR = +V
		Initialize
PTT delays valid for all	CAT/PTT types Start of transmit PTT delay PTT end of transmit delay	Initialize

"Use separate serial port PTT" にチェックを入れ、PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8)する。"Use RTS" にもチェックを入れ Initialize ボタンを押すとシリアルポ ートが開きます。設定を保存するには Save ボタンを押します。

# 6.3 CAT 設定

Hamlib タブを選択する。

dware PTT RigCAT Hamlib XML-RPC			
<b>⊘</b> Use I	Hamlib		
Rig: Icom IC-9100 (Untested)	Device: CC	M7	
Retries Retry Interval (ms) 3 200		Baud rate: 19200	<b>~</b>
Write delay (ms) Post write delay (ms)		Stopbits	1
OPTT via Hamlib command		Sideband:	
ODTR +12	ORTS +12		1
ORTS/CTS flow control		F flow control	
Advanced configuration:			
		Initia	alize

最初に"Use Hamlib"にチェックを入れ、次にお使いの TRX を選択し、"PTT via Hamlib command"のチェックを外します。CAT に使うシリアル・ポートを選択(例では COM7)し、TRX 取説に記載のボーレートとストップビットを選択し、Initialize ボタンを押 して CAT ポートを開きます。Save ボタンを押して設定を保存します。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

RigExpert Navigator
Status Ports Settings Firmware
Interface: RigExpert TI-7 (7000003)
CAT port
COM7 is open by fldigi.exe Parameters: 57600 baud, 8, N, 1
PTT/CW port
COM8 is open by fldigi.exe PTT=RTS Test CW=DTR Test
FSK port COM9 - is not open by any program
Hide

# 7. Ham Radio Deluxe (HRD version 6.2.3.271)

# 7.1 CAT 設定

File⇒Connect menu (or press Ctrl-N).より New タブを選択する。

New Preset Seri	al Ports Help	
Company: ICOM	✓ Status	
Radio: IC-9100		
COM Barty COM7		
Speed: 38400	<u> </u>	
CI-V Add. //C		
Flow control / Interface pov	ver	
CTS T DTR F RT	S	
Connect Always	connect to this radio when HBD Big Control	
statung	Auto Exit	Auto Start
<ul> <li>Start HRD Rig Control in</li> </ul>	🗖 HRD Digital Master	HRD Logbook
Full Screen mode	HRD Logbook	HRD Rotator
	Entire HBD Suite	

CAT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM7)し、TRX 取説に記載のボーレート等を 選択し、Connect ボタンを押して HRD と TRX の通信を開始させます。

# 7.2 オーディオ設定

メニューより Digital Master を起動し Tools ⇒ Program options の左側リストより Soundcard を選択します。

Appearance	Soundcard
Callsign (My Info)	Input (Receive)
ogbook	Device: マイク (RigExpert TI-7)
Modes + IDs	
TT	
Radio	Output (Transmit)
)SO	Device: 78-th- (RigEvoert TT-7)
Soundcard	
and the second sec	

入出力共に"RigExpert TI-7"を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

# 7.3 PTT 設定

Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program options の左リストより PTT を選択しま す。

Callsign (My Info) Clock Logbook © via Serial (COM) port © via Ham	Deluxe
Port: COM0	Radio Deluxe connected to
PTT On TX: VISet DTR (data-terminal-ready)	IRD connectio

"via Serial (COM) port" のラジオボタンを点灯させ、PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8 )する。 "Set RTS (request to send)"にもチェックを入れる。

#### 7.4 CW 設定

Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより"Modes + IDs" を選択します。



"Enable serial (COM) port keying" にチェックを入れ、CW に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8、PTT ポート同様に)し、"Toggle pins: DTR" にチェックを入れる。

## 7.5 FSK/AFSK 設定

Digital Master は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

## 7.5.1 FSK モード

Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより"Modes + IDs" を選択し、RTTY タブを選択します。



"FSK Keying"コーナーの Enable にチェックを入れ、FSK に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM9)し、 "Microham 1 (TX) only" も選択する。

RTTY をFSK モードで運用するには、Digital Master の主画面で"RTTY-45 (FSK)"を 選択します。

# 7.5.2 AFSK モード

RTTY をAFSK モードで運用するには、Digital Master の主画面で "RTTY-45 (AFSK)"、 "RTTY-50" または "RTTY-75"の何れかを選択します。

8. WinTest (WinTest version 4.8.0)

#### 8.1 CAT 設定

WinTest のメニューから、Options  $\Rightarrow$  Configure interfaces を開き、

Serial ports				Printer ports
COM1	Network	▼ 9600 8-N-1	Configure	LPT Configure
COM2	Network	▼ 9600 8·N·1	Configure	CW PTT ON delay (ms): 50
COM3	Network	▼ 9600 8-N-1	Configure	Ethernet
COM4	Network	▼ 9600 8-N-1	Configure	Enable Ethernet network Broadcast address:
COM5	Network		Configure	192.168.1.255 By default
COM6	Network	▼ 9600 8·N-1	Configure	Port number: 9871 By default
🖊 СОМ7	Radio 1	▼ 9600 8-N-1	Configure	Network protocol
	Other interface	➡ 9600 8-N-1	Configure	Advanced settings
СОМЭ	Network	➡ 9600 8-N-1	Configure	Voice keyer

最初に画面左下の"Radio 1"にお使いの TRX を設定し、次に RigExpert TI-7 の CAT ポートに該当する COM 番号(例では COM7)にチェックを入れる。. "Radio 1"を選択し、 "Configure"ボタンを押す。

t properties			Options	
Bits per seconds:	9600	•	DTR (pin 4):	Handshake
Data bits:	8	•	RTS (pin 7):	Handshake
Parity:	None		Active with:	Both radios
			IC-Ge	neric default settings

ボーレート他の項目は、TRXの取説に記載の値を引用し、OK ボタンを押します。

## 8.2 PTT/CW 設定

WinTest のメニューから、Options  $\Rightarrow$  Configure interfaces を開き、

Serial ports				Printer ports	
COM1	Network	- 9600 8-N-1	Configure	LPT Co	nfigure
СОМ2	Network	← 9600 8-N-1	Configure	CW PTT ON delay (ms):	50
СОМЗ	Network	☞ 9600 8-N-1	Configure	Ethernet	
COM4	Network	▼ 9600 8-N-1	Configure	Enable Ethernet n Broadcast address:	etwork
СОМ5	Network	- 9600 8-N-1	Configure	192.168.1.255	By default
	Carlos de la composición de la composicinde la composición de la composición de la composición de la c	0000 0 N 1		Port number:	
LOMP	INEtWORK	* [3000 0-14-1		9871	By default
🔽 СОМ7	Radio 1	▼ 9600 8·N·1	Configure	Network protocol	
🔽 СОМ8	Other interface	▼ 9600 8-N-1	Configure	Advanced se	ettings
п сома	Network	- 9600 8-N-1	Configure	Voice keyer	

RigExpert TI-7のPTT/CWポートに該当するCOM番号(例ではCOM8)にチェックを入れ、 "Other interface"を選択し"Configure"ボタンを押す。:

tios 🔹
settings
0

Options コーナーで "DTR (pin 4)"をCW に、"RTS (pin 7)"をPTT に割付、OK ボタンを押す。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

🛅 RigExpert Navigator 🗙 🗙
Status Ports Settings Firmware
Interface: RigExpert TI-7 (7000003)
CAT port
COM7 is open by wt.exe
Parameters: 4800 baud, 8, N, 2
PTT/CW port
COM8 is open by wt.exe
PTT=RTS Test CW=DTR Test
FSK port
COM9 - is not open by any program
Hide

Copyright © 2014 Rig Expert Ukraine Ltd.

http://www.rigexpert.com

RigExpert is a registered trademark of Rig Expert Ukraine Ltd.

RigExpert TI-7 USB Transceiver Interface is made in Ukraine.



翻訳·作成·印刷 JA1SCW 日下 覚

20-July-2014